

ニュース

第36回国際養蜂会議開催

第36回国際養蜂会議はカナダ太平洋岸のバンクーバー市で9月12日-17日に開催された。(社)日本養蜂はちみつ協会やアジア養蜂研究協会主催のツアーの他、個人参加を含めて80名以上が参加した日本からは、シンポジウム(4)、一般講演(2)、ポスター(2)の発表があった。併催のApiExpo'99には大阪の東養蜂場が出展されていた。

役員人事では、R.ボルネック会長(フランス)が任期満了となり、後任にデンマークのA.S.ヨルゲンセン氏が就任した。各委員会では、渡辺英男氏が養蜂経済委員長に留任、当施設の松香教授がアピセラピー委員に加わった。

会議の参加報告は次号に掲載の予定。

日本花粉学会第40回大会開催

日本花粉学会は、名城大学で開催された第40回大会を記念して、学会開催期間(10月23-24日)に公開講演会を開催。ミツバチ関係では当施設の松香教授が「花粉とミツバチと私たちの健康」と題して講演し、多くの養蜂家の方々にも出席いただいた。また花粉学会では今回学会賞を設立、第1回の受賞者は本誌にも数度にわたって論文を掲載しておられる田中肇氏であった。お祝い申し上げます。

第22回ミツバチ科学研究会の予告

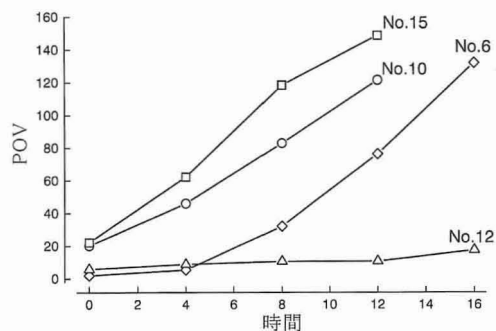
第22回ミツバチ科学研究会は、来年1月16日(日)に開催の予定。今回は玉川大学でのミツバチ研究50年を記念して、アメリカ、コーネル大学のシーリー博士を招待してご講演いただくことになった。シーリー博士は本誌でも紹介した「ミツバチの生態学(翻訳:大谷)」や「ミツバチの知恵(翻訳:長野・松香)」の著者で、ミツバチが蜜集めについて、何をどうやって決めているのか、わかりやすい実験に基づいたお話をしていただける予定。翌17日に玉川

大学で学術セミナーを、また滞在期間中に関西圏でも講演会を開催の予定である。詳細は11月中旬に郵送でご案内する。

訂正

第20巻3号で図版の入れ違いが2か所と数値の誤植があった。下記の通り訂正し、関係者にお詫び申し上げます。

- ①p.97の図1とp.100の図2を入れ替える
- ②p.132表1説明でヨウ素価80~100とあるのは5~15の誤り
- ③p.133の図3は下記のグラフにさしかえる



編集後記 アピモンディアでは「ペーパーレス時代を迎える養蜂雑誌」という発表があり、立場上いろいろ考えさせられた。実際には20-30年後を想定した話だが、そのときをこの雑誌が無事に迎えられるために検討しておく課題は山積みである。

今回の索引作成にあたって、誤植が多いのに愕然とした。ここにも訂正記事を掲載する羽目になったし、必ずしも見やすすくない索引にも拭い切れていない間違いがありそうだ。ほとんどは編集担当者の努力不足である。今後、発行を継続するためには質的な充実も目指さねば…

著者名索引を作成して実に多くの方々に参加していただいている雑誌だと気がついた。ただ、このところ養蜂家の方々からはあまり記事をいただけていない。こちらの声のかけ方も悪いのだろうが、研究者がどんなに優れていても、養蜂家の経験にはかなわないものがある。古い目次をご覧になって、まだあんなことが足りない、こんなことなら書いてもよいと思われたら、巻末の執筆要領をご覧になって、ぜひ一文をお願いしたい。お気軽にご連絡を。(純)